

審査員特別賞

想像力で世界を笑顔に

森村学園高等部 1年 浅羽 真帆

「大きくなったら建築家になって世界みんなを笑顔にしたいです。」小学校の卒業ビデオの中の私はそう叫んでいた。それから約4年が過ぎ、世界の情勢はめくるめく変わっていった。コロナによる混乱、ロシアとウクライナ間での争いなど。そんな2022年の夏、私は小さな1歩を踏み出した。

夏休み、私はオンライン留学をした。そこで自分の住んでいる地域を紹介する時間があった。クラスには様々な国籍や年齢の人がいて、それぞれ私が想像もできない場所に住んでいた。驚く私に、先生がこう言った。

「おもしろい！みんな自分の国のことを喋ると途端に笑顔になるのね。」

言われてみれば確かに、いつも自信がなさそうに発言する人でも、自分の国について話すときは笑顔だった。先生の言葉には、人の心を動かせるような力があつた。

その中にロシア出身の女性がいた。初めてロシア出身だと聞いた時、みんなが心の中でどう思っていたのかは分からない。しかし、みんなは、今大丈夫なの？安全なの？と、彼女を心配していた。彼女は今、東アジアにある小さな島に疎開しているという。もちろんクラスにはロシアを敵対視している国出身の人も多かった。そのためか、彼女は自国のことには絶対に言及しなかった。本当はみんなと同じように、自国のことを笑顔で話したかったかもしれない。そんな彼女の心情を想像しただけで涙がこぼれた。少なくとも、彼女はそれまで自分のことに一切触れなかった。しかし、その先生の一言をきっかけにぼつりぼつりと自分のことを話し始めたのだ。自国のことではないが、暗い話題ではなく、楽しいことを。彼女によると疎開している島はリゾート地で、小さいながら海に囲まれて絶景が楽しめるという。彼女は私にその島から見える素晴らしい景色の写真を見せてくれた。その時の彼女は笑顔だった。私は、彼女が今の自分の生き方に誇りを持っているように感じた。そして、留学が始まったときは無愛想だった彼女が、ペアワークが終わろうとしていた時には、私に向かって笑顔で手を振っていた。

私は、避難した先でも頑張って前向きに生きている人がいるということを知った。それと同時に自分の暮らしとの差に愕然とした。恐らく、彼女は今いる環境により馴染むために英語を学んでいるのだろう。

この経験を通して私の世界への見方が変わった。バイアスのかかったニュースを受動的に見るのではなく、その背後の人々を考えるようになった。世界では国同士の争いに焦点が当たるが、その争いの中にあるのは、そこに生きている人々の人生そのものなのだ。世界には、このように、自分の人生までもが変わり果ててしまった人々が数多くいるのだ。

How can we make people all over the world smile?

それは、見えないものを思い描く想像力だと思う。世界には自分で解決できない問題を抱えている人がいる。特に国同士の対立では個人のことなど関係なく差別が相次ぐ。差別されている人が何か特別いけない事をしたわけではないのに。それを最大限理解し、差別を無くすことが、どれだけ大切な事なのか。私は身をもって感じた。

今、何不自由なく暮らしている私が世界の人を笑顔にするには、まず世界の複雑な状況下の人々を想像することだ。その意味で、私はこの第1歩を踏み出すことができた。

今私は部活でサッカーに打ち込みながら、将来建築家になってサッカースタジアムを自分で設計したいという夢を追いかけけている。

そしてこれから。この夏の経験を通して、私は将来建築家として、国同士がスポーツマンシップに則って真剣に闘い合うスタジアムを、互いのサポーターを巻き込んで、それぞれの背景を想像して尊重し合える場所にしたいと思うようになった。それが世界の人を笑顔にすることに繋がると思う。